



◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン（第 31 号 2014/10/14 発行）



<http://www.iima.or.jp/>



＼1. 理事長 行天豊雄 コラム／

国際協調が消えた

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2014/20141014gyoten.pdf>

案じていた通り先般オーストラリアで行なわれた G-20 会合は世界経済が如何に協調しづらい状態にあるかを見せつける結果になってしまった。もっと成長を高めたいという願望だけは…

＼2. 客員研究員 孕石健次 コラム／

新興国金融の発展～Bankable から Investable へ

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2014/20141014haramishi.pdf>

銀行退職後 3 年余りベンチャーに勤務したが、結局、長く関わった新興国金融の世界に戻り、英銀系の HSBC 投信に在籍して 7 年余りが過ぎた。最初に新興国に関わったのは、支店貸付課で…

■ IIMA Global Market Volatility Index・購買力平価グラフの更新 ■

<http://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>

《掲載内容》

- IIMA Global Market Volatility Index  
（グローバルな金融・資本市場のリスク度を表す指数）
- 購買力平価グラフ  
（ドル円）（ユーロドル）（ユーロ円）

■ 今月の新着レポート ■

1. 「中国の社債市場の現状と展望」 五味 佑子

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No\\_36\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_36_j.pdf)

中国の債券市場規模が近年拡大しており、中でも社債の存在感が大きいが、債券

市場における銀行の過大なプレゼンス、社債の発行体や投資家の多様化の遅れなどが課題となっている。また中国の社債は債券の種類によって監督機関が異なり、取引できる市場が異なるという特徴がある。

2. 「Corporate Bond Market in China

: Its Present Situation and Prospect」 五味 佑子

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No\\_36\\_e.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_36_e.pdf)

「中国の社債市場の現状と展望」の英語版

3. 「ユーロ圏の対外不均衡

～危機を背景に修正進行中だが、縮小均衡に。望まれる政策転換～」 山口 綾子

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No\\_35\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_35_j.pdf)

ユーロ圏の経常収支は、グローバル経済金融危機直前まで、南欧の赤字・北部の黒字が急拡大し、その後のユーロ・ソブリン危機の一因となった。ソブリン危機を経て、不均衡は修正されてきた。本レポートでは、その修正の過程、今後の課題について分析を行った。

4. 「金融危機後の米国の縮小する経常収支赤字と対外純負債急膨張のパラドックス

～対外投資リターン格差の優位、変調か持続か～」 竹中 正治

[http://www.iima.or.jp/Docs/report/2014/no2\\_2014\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/report/2014/no2_2014_j.pdf)

2008年の金融危機以降、米国の経常収支赤字は急速に縮小する一方で、対外純負債は急膨張している。この要因は「米国株価の上昇率>海外株価の上昇率」という一時的現象とみられ、中長期的には、再び米国から見たプラスの投資リターン格差の状態へと戻っていくと見込まれる。

5. 「変貌する中南米の経済地図 ～成長の中心は太平洋岸に～」 森川 央

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No\\_34\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_34_j.pdf)

チリ、コロンビア、メキシコ、ペルーから成る太平洋同盟は、中南米の主要7カ国のGDPの38.5%を占める。これはブラジルの42.9%に匹敵する大きさだ。一人当たり所得も10,100ドル（4カ国平均）とブラジルの9割に相当する。市場としてもブラジルに引けを取らない。

そして太平洋同盟諸国の景気は比較的底堅い動きをしており、2014年、15年は中南米の成長の大半を担う見通しとなっている。太平洋同盟諸国の躍進の理由を探った。

■ 今月の IIMA

今月から2つの大学において IIMA の研究員による講義が始まります。研究成果を

学生の視点から評価して貰うことは、研究の質的向上につながります。また、様々な学生との出会いは研究員にとって大切な財産になります。研究員は多くを与えてくれる学生に対して、知的好奇心を刺激する講義を行うことで報いたいと思っています。

ワシントン DC において 10 月 10 日から 3 日間開催される IMF・世銀総会に、今年も IIMA 所員が参加いたします。総会には国際機関や政府機関、中央銀行、財務当局、金融機関、市民団体、学術研究機関の関係者 1 万 3 千人が集い、世界経済・金融の課題について意見を交換します。IIMA は総会参加を通じて世界経済・金融の潮流を読み取り、今後の研究やシンポジウム立案に活用して参ります。

---

【バックナンバー】

<http://www.iima.or.jp/mailmagazine.html>

【次号】

2014 年 11 月 10 日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】

[admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

※閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから

→<http://get.adobe.com/jp/reader/>

本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

---

◇発行◇

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

Copyright(C) IIMA All Rights Reserved.